

ここまでの数百年間も
三宗家のひとつとして、
琉球王朝へ納める
びんがたを染めている。

西暦 1700 年ごろまでの
知念びんがた (約七代)

びんがた

父 知念筑登之親雲上 (紅型)

歌で士族となった本家

びんがた宗家

知念家本家

長男・知念績高
〈ミーハギー知念〉
知念筑登之親雲上

初代

下儀保村知念初代

次男・知念筑登之親雲上〈寿庵〉(紅型)

歌を認められ
王朝から「筑登之親雲上」という
位を与えられ、「初代」となる。
知念家の「代」は、
ここから数えている。

下儀保村知念

上儀保村知念

大家

下儀保村二代

長男・知念筑登之親雲上
(嫡子) (紅型)

上儀保村初代

次男・知念仁屋
(紅型)

知念筑登之親雲上 (紅型)

知念筑登之親雲上
(紅型)

知念筑登之親雲上 (紅型)

知念績昌 (紅型)

知念績朗
(紅型)

昭和 10 年頃

戦前、
人間国宝・鎌倉芳太郎氏に
大量の型紙を譲る。
後に紅型復興の重要な資料に。

知念績貞 (紅型保存)

知念績秀
(紅型)

知念家本家

現在も続く

知念雅次郎 (早世)

知念績弘
(紅型)

昭和 30 年代

知念貞男 (紅型)

戦後、琉球紅型復興の
立役者のひとり。
知念貞男、知念績元に
びんがたを教える。

下儀保知念の紅型を
「知念紅型研究所」として再開
冬馬に紅型を教える

知念正人

知念績元
(紅型)

知念冬馬 (紅型)

代々しっかりと
昭和初期の紅型低迷期も
制作を続けてきた
知念紅型の家系

知念紅型研究所

知念びんがた工房